

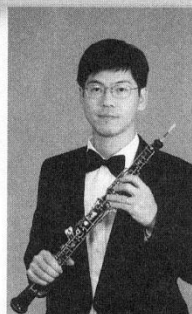
演奏に役立つ One Point Lesson

O B O E

オーボエ

人さし指で実験してみましょ

福田淳 ふくだ・きよし



- ◆出身 岡山県作陽高校、京都市立芸術大学・大学院
- ◆所属 大阪市音楽団、アンサンブルダンツィ大阪
- ◆趣味 自然の中でのんびり過ごすこと
- ◆血液型 B型
- ◆星座 みずがめ座
- ◆読者にひとこと 自然体、「ありのまま」でいきましょう
- ◆手紙の送り先 kiyoshifukuda@di.pdx.ne.jp

前回までの第2章では、楽器の構え方やリードのくわえ方など、オーボエ独自の基本項目について解説してきましたが、いったんここまでにして、第1章から述べてきた「日常で起きている状況」の続きを語っていくことにします。

なお、今年度の連載が完結して、後日まとめて読むときは、第1章→第3章→第2章→第4章の順で読んでみてください。

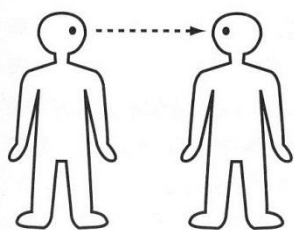
[3-①] 楽器へのアプローチ

第1章では「日常で起きている状況」について考察しましたが、それをふまえて、どのように楽器へアプローチしていくか語っていきましょう。

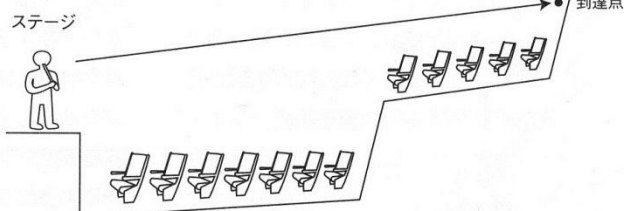
第1章で「無意識に行なっていることを自覚・認識して、それを楽器演奏に移しとる」と述べましたが、まず、人がしゃべるときに、どのようなことをしているか考えてみます。しゃべるときは「誰と」しゃべっていますか？「どこを見て」いますか？

このときの体の動きや、息や支えの変化については、第1章での「はい」の考察や、その他の動作に共通するものなので、この項では省きますが、しゃべるときは、相手の目を見ていますね。つまり、「自分の想いを届けたい相手の目を見て話している」ということです（[図1]）。音楽の場合、想いを届けた相手は聴衆ですが、広いホールの後ろの座席まで音を届けなければならないので、演奏者が見る場所は2階席のいちばん後ろの壁になります（[図2]）／「最後列に向かって音を

[図1] しゃべるときは、相手の目を見ている



[図2]



出せ」、よく言われることです。

☆ここでちょっとお遊び（しかし大事です）人さし指を出して、それをロウソクだと想ってください。次に、そのロウソクに火がともっているとイメージします。そしてその指（火のついたロウソクです）を口元に持っていき、炎を吹き消してください。

消せたら次は腕を伸ばして、同じように炎を消してください。さらに、誰かに手伝ってもらって、もっと遠く離れた場所に指をかざして炎を消してください。

ここで考えてください。口元の炎を消したときと、遠くの炎を消したときは、何がどのように違いましたか？あるいは同じでしたか？ロウソクの位置が変化したことによって、何が変わったのでしょうか。

解答です。ちょっとあげるだけでも、次の10項目について変化がありますね。

- 1 見る位置（距離）が違う
- 2 見る範囲が違う（「見える」ではなく）
- 3 吸う息の量が違う
- 4 息のスピードが違う
- 5 息を出している時間の長さが違う
- 6 息の太さ（まとめ具合）が違う
- 7 意識の集中度が違う
- 8 息を届けようとする想い（気持ち）が違う
- 9 炎が遠いほど、体が前へ行こうとする
- 10 口の形も違う

そして、楽器を吹くときには「遠く離れた場所にあるロウソクの炎を吹き消そうとした

とき」に起きている要素が必要なのです。このときの身体の状態を具体的に書くと、

- 1 見るのは遠くの目的地で
- 2 そして、目的地を見る範囲は「1点」で
- 3 吸う息の量は多く
- 4 息のスピードは速く
- 5 息を出している時間は長く
- 6 息をまとめて凝縮させて出して
- 7 一点に集中して
- 8 「前へ届かそう」と想い
- 9 体が前へ行こうとして
- 10 口もすぼまるとんがり、少しでも前に行こうとしている

以上のようになっています。全く同じとは言いませんが、方向性は一致しています。

しかし、ここで改めて考えてみてください。「ロウソクの炎を……」と言っていますが、本当は「指」ですよね？その「指」を「ロウソクだと想って（イメージして）」実験したのは、「イメージ半分、現実半分」の状態を視覚的に補助するためだったのです。

……と考えていくと、「口元にロウソクがある」と想ったのか、「遠くにロウソクがあると」想ったのかの違い、言い換えるなら「Aと想ったのか、Bと想ったのか」の違いによって「現実（＝身体の状態）」が大きく変化したのです。

ここから考えられるのは、「肉体をコントロール（支配）しているのはイメージ（想い）であり、イメージによってのみ体をコントロールできる」ということです。

[3-②]「音の高さと音の位置」について

ここでひとつ質問です。高い声（可能な限りの）を出そうとしたらどうなりますか？逆に、低い声（やはり可能な限りの）を出そうとしたらどうなりますか？普通に出しやすい声と比べて、何か違いますか？じっくり試してみてください。

（この項続く）